万博公園探鳥会

2024 年 6 月 8 日（土）
リーダー　田中宏・中筋好子・橋本昌宗・大矢麻由美
玉置こるり・平軍二（090-6901-1425）

Ⅰ　千里の鳥・万博の鳥「ウグイス」

↓　橋本昌宗

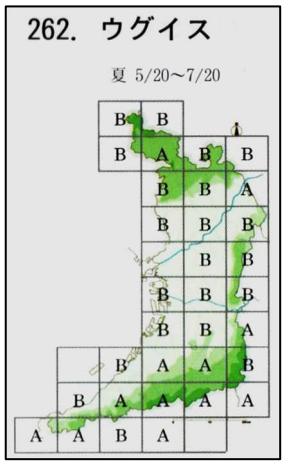
先月(5/11)万博公園探鳥会ではウグイスの囀り(さえずり)を何回も聞き、杉の木の枝に止まって長時間囀ってくれたウグイスがいた。

ウグイスの体長は雌 14～雄 16 cmとほぼスズメ大の小鳥。春に囀り始めるため「春告鳥」と言われ、「ホーホケキョ」あるいは「法、法華経」と人の言葉におきかえた「聞きなし」が有名で、誰にもわかる小鳥である。

ウグイスは北海道で夏鳥であるが、本州以南では漂鳥、平地から山地の林で繁殖・子育てをしており、冬は平地の都市公園や住宅地に移動している。吹田市では万博公園や千里緑地などで、一年中生息している留鳥となっている。

ウグイスは昔から歌声が親しまれていたことからいろいろ話題があり、「梅に鶯」もその一つである。梅に鶯は同じ季節の似合う図柄として利用され、花札にも描かれているが、実際にウメに来るウグイスを見ることはほとんどない。ウメの花に来る黄緑色の小鳥はメジロで、「チィーチィー」鳴きながら蜜を吸っている。この時ウグイスの法華経が聞こえたとしても、近くの笹やぶなど茂みの中にいて、虫探しをしている途中に歌ったと思われる。

ウグイスは地味な緑褐色なので、花札に描かれたウグイスや、ウグイス餅など美しい黄緑色の鳥はメジロと思われる。メジロは花の蜜が好きで、ウメの花が咲くとすぐに蜜を吸いにくるが、ウグイスは昆虫食なので花の蜜を吸うことがないため、ウメの花に近づくことは少ない。ただ、ウメの花が咲き始める頃ウグイスは、それまでの地鳴き「チャッチャッ」から、「ホーホケキョ」と囀りの練習を始めるので、ウグイスの歌声に梅に鶯の季節が来たと感ずることが多い。初夏に鳴くウグイスの季語は「老鶯」、漢詩に使われた言葉で「夏になって声に張りのなくなった鶯をいう」となっているが、実際には、春よりも鳴声は達者で、夏の緑の生気に負けないほど高らかである。 今月の万博公園探鳥会でもウグイスの囀りを堪能したいと思っている。



Ⅰ－①　大阪府のウグイス　大阪府鳥類目録 2016（大阪支部）　→

ウグイスは漂鳥、冬に平野部の住宅地にいたウグイスのほとんどがいなくなり、山地に移動して子育てをしていると思われるが、右図の通り大阪府全域で見ると、全域が繁殖ランクAorBで確認されていることから、実質留鳥といえる。

各年代の分布状況の変化

メッシュ数	A	B	C
1974-1978	187	841	34
1997-2002	101	1010	48
2016-2021	70	1098	13

調査地数	
1997-2002	1746
2016-2021	1786

Ⅰ－②日本でのウグイス繁殖状況

←　全国鳥類繁殖分布調査報告 2016-2021 年（鳥類繁殖分布調査会）

記録メッシュ数は増えているが，山地では個体数が減少し，平地では増加した場所が多い。シカによる摂食で下層植生が減少した場所では，ウグイスが見られなくなった場所がある

Ⅱ　先月 2024 年 5 月万博探鳥会結果 （鳥写真：橋本昌宗）

上左　カワラヒワ　　上中シジュウカラ　　上右カイツブリ　　下左スズメ　　下中ムクドリ　　下右カルガモ

コンサートの騒音にも負けず、林の中から「いるよ」と合図してくれたのは渡り鳥のキビタキやセンダイムシクイ、留鳥のカイツブリ・ヤマガラ・シジュウカラ・エナガ・ムクドリ・スズメなどに繁殖行動が見られ、ウグイスは姿の見える所で長く鳴き続けてくれた。また、林の遊歩道上を飛びまわるツバメにコシアカツバメがいたことから、腰の色・大きさなど両種の見分け方を楽しんだ。

バードウィークの快晴で絶好の鳥見日和と思ったが、万博公園自然文化園の芝生広場が野外コンサート**「ごぶごぶフスティバル」**の会場となり、探鳥コースに人出が多く通行止めがあり、また、園内一円に大音響が響き渡るなど、鳥見の環境としては最悪状態でした。しかし鳥たちが気遣ってくれたのか、観察種は 26 種とまずまずであった。

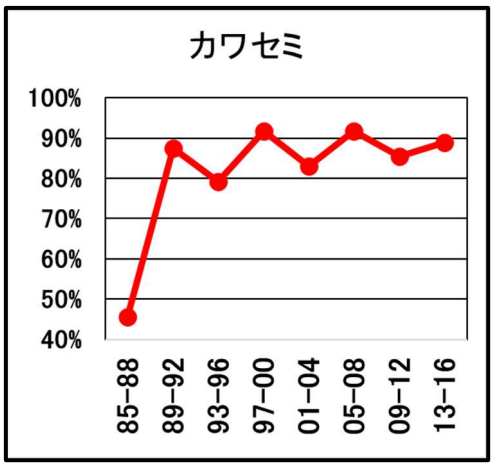
自然文化園内の人出（平　軍二）

Ⅲ　万博公園のカワセミ（二代目シンボル鳥）→

先月書いたように、1985 年万博探鳥会スタート時点から**「万博公園シンボル鳥としてきたキジ」**は、探鳥会は 1998 年以降、その後は春の渡り鳥早朝調査で 2012 年に 1 回観察したのみで、全く観察できない、幻の鳥となった。

キジに変わってシンボル鳥として、探鳥会を盛り上げてくれた鳥は**カワセミ**である。

カワセミの観察頻度は右図の通り 1980 年代に少なかったが、1990 年代以降ほぼ毎月（90％前後）、安定的に観察できる鳥となり、**「カワセミを見ることができたので、探鳥会を終わりにしてもいい」**と思えるくらいになった。



Ⅲ①カワセミの盛衰

1960 年～1980 年ごろカワセミが消えたことがあった

唐沢孝一・「マンウォッチングする都会の鳥たち」(1987 年)草思社より **「カワセミ」の一部抜粋**

この素晴らしい水辺の鳥は、かつては多くの河川に棲みつき、都心の公園の池はもちろんのこと、冬季には人家の小さな池にも姿を現わすくらいポピュラーであった。しかし、一九六〇年代の高度経済成長期には、〝幻の鳥〟とまでいわれ、次々と都市河川から姿を消してしまった。ところが一九八〇年代に入って、復活の兆候が出てきたのである。いったいカワセミの後退や復活を起こさせたものは何だったのだろうか。

後退とその要因

東京でのカワセミの減少については、松田道生氏がまとめた「減少する東京のカワセミ」(一九七一年)に詳しく述べられている。これによれば、多摩川水系のカワセミは一九六〇年以降に急激に減少し、郊外に後退していったことがわかる。

一九五五年ごろまでは、水辺に行けば普通に観察でき、一九六〇年までは都心の明治神宮の探鳥会でもほぼ毎回観察されていた。しかし、東京オリンピック(一九六四年)のころには立川や多摩湖、一九七〇年には八王子や日野、青梅にまで後退し、秋川合流点より下流ではほとんど姿を見かけなくなったのである。

一九六〇年代以降に急激に姿を消した原因はいくつか考えられる。第一には水質汚染によるカワセミの餌である魚の減少、第二には生息場所の環境破壊、とりわけ営巣場所としての岸辺のコンクリート化があげられる。

一九八〇年代に入ってから、都心から姿を消したはずのカワセミが再び繁殖しているというので、マスコミなどで話題になるようになった。一九八四年五月二一日付け毎日新聞夕刊には、「カワセミ都心に帰る」の見出しで復活の様子が地図入りで紹介されている。カワセミの復活については、金子凱彦氏の「帰ってきた東京のカワセミ」(一九八五年)に詳しいが、これによれば、一九八〇年には多摩川中流の是政、調布市の公園、多摩湖(東大和市)で、一九八二年には和田堀公園(杉並区)、石神井公園(練馬区)で、そして一九八三年には文京区内の公園で繁殖が確認され、多摩川の登戸付近でも繁殖したらしいのである。

復活の真の原因はなにか

カワセミの減少した原因が、水質汚染や河川の改修などであったとすれば、カワセミの復活は都市に清流が戻ってきたことを意味するのであろうか。環境が悪化したから鳥が郊外に後退した、しかし鳥が戻ってきたから環境がよくなったといえるのであろうか。〝逆は必ずしも真ならず〟ということもあるのである。

カワセミが繁殖するためには、子育てに必要な場所や餌の問題が解決されなくてはならない。川に魚が増えてきていることは確かなようだ。有機塩素系農薬の使用規制の効果もあるかもしれない。しかし、どうやら汚染に強いといわれるモツゴ(クチボソ)、フナ、オイカワなどが増えたのであって、工場排水や家庭排水による水質汚染が根本的に改善されたわけではない。

高野伸二氏が指摘したように、カワセミの習性が変化したことも大きな要因としてあげられよう。人を恐れ、警戒していたカワセミが、釣り人の近くで平然と採餌したり、家庭排水の流れこむドブ川でも採餌するようになった。水辺から数キロも離れた崖地や水抜き用の排水口で営巣するといった、これまで見られなかった生態も現出している。

Ⅲ②大阪府鳥類目録

右上　1987 年　→
右下　2001 年　┐
左下　2016 年↓　↓

188.　カワセミ　Alcedo atthis　**大阪府鳥類目録1987**

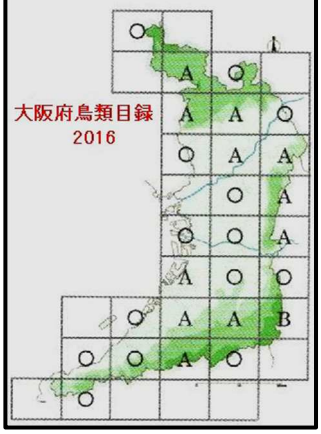
留　鳥　　繁殖　◎

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

農薬が盛んに使われていた1960年代と比較すると、近年かなり個体数が回復し、府下各地で周年見かけられるようになった。冬には大阪城公園など、本来の繁殖地以外の場所にも飛来する。

217.　カワセミ

夏 5/20～7/20

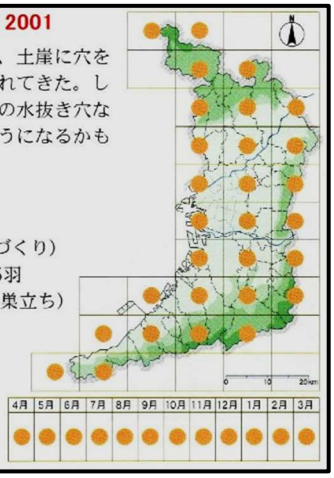


207.　カワセミ　*Alcedo atthis*　○　留鳥　　**大阪府鳥類目録 2001**

冬期には、大阪市内の河川やため池を含め、府下で広く観察される。繁殖は、土崖に穴を開けて巣をつくるので、河川やため池の改修が進んだ市街地では少ないとされてきた。しかし近年、工事などでできた水辺から離れた土壁や、塩化ビニール製パイプの水抜き穴などを巣場所に利用するようになっており、将来市街地でも普通に繁殖するようになるかもしれない。

1978.12　藤井寺市

(記録)
交野市('90.3.18　♂♀各1羽：巣づくり)
東大阪市池島('99年　Ad2羽Juv5羽
：巣立ち)



Ⅳ 万博公園探鳥会観察種 チェックリスト

		種 名	2023年						2024						
			1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
			29	11	11	8	13	10	13	10	9	13	11	8	
1	24	オシドリ			7	9			2	2	25				24
2	26	オカヨシガモ													26
3	27	ヨシガモ	1												27
4	28	ヒドリガモ													28
5	30	マガモ	1						2			2			30
6	32	カルガモ	23	14	28	16	5	4	32	26	28	9	16		32
7	35	オナガガモ													35
8	38	コガモ													38
9	42	ホシハジロ									1				42
10	46	キンクロハジロ				2			1	2					46
11	58	ミコアイサ													58
12	62	カイツブリ	10	6	10	6	3	1	4	7	1	3	5		62
13	74	キジバト	3	3	7	9	4	7	5	1	4	8	4		74
14	78	アオバト	8	14	3					5	1				78
15	127	カワウ	2	5	13	9	13	14	3	6		8	7		127
16	139	ゴイサギ						1							139
17	144	アオサギ	2	2	2	1	4	1	2	1	2	1	1		144
18	146	ダイサギ						1		1	1				146
19	148	コサギ	2	2	2					5	2	3			148
20	166	クイナ													166
21	174	バン				1									174
22	175	オオバン			1										175
23	187	ツツドリ													187
24	192	アマツバメ													192
25	195	ケリ													195
26	202	イカルチドリ													202
27	203	コチドリ													203
28	219	タシギ							2	2	2	2			219
29	244	イソシギ													244
30	286	ユリカモメ													286
31	339	ミサゴ							1	1					339
32	340	ハチクマ													340
33	342	トビ								1			2		342
34	354	ツミ													354
35	355	ハイタカ			2				3	1	1				355
36	356	オオタカ		1			1		1	4					356
37	357	サシバ													357
38	358	ノスリ			1						1	1			358
39	383	カワセミ	2	2	5	2	1	4	4	2	6	1	3		383
40	388	アリスイ				1									388
41	390	コゲラ	6	2	5	4	8	8	5	5	2	5	2		390
42	401	チョウゲンボウ		1						1	1	1			401
43	407	ハヤブサ													407
44	412	サンショウクイ													412
45	418	サンコウチョウ													418
46	420	モズ	3	2	3				2	1	1				420
47	435	ハシボソガラス	4	7	2	14	23	14	15	7	5	13	15		435
48	436	ハシブトガラス	71	89	71	21	13	36	32	38	48	34	48		436
49	442	ヤマガラ	7		3	2	10	5	4	8	2	2	2		442
50	445	シジュウカラ	21	13	18	12	29	16	14	18	17	23	17		445
51	457	ツバメ			1	12	34	10				6	27		457
52	459	コシアカツバメ						1					3		459

		種 名	2023年						2024						
			1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
			29	11	11	8	13	10	13	10	9	13	11	8	
52	463	ヒヨドリ	60	31	30	4	15	8	67	52	26	13	12		463
53	464	ウグイス	2	2	5	7	8	6	2	1	5	11	6		464
54	465	ヤブサメ													465
55	466	エナガ					18	10	8	9	6	2	6		466
56	476	オオムシクイ													476
57	477	メボソムシクイ													477
58	479	エゾムシクイ													479
59	480	センダイムシクイ											1		480
60	485	メジロ	30	5	7	5	23	18	6	4	7	8	11		485
61	492	オオヨシキリ													492
62	501	ヒレンジャク													501
63	506	ムクドリ			1	37	5	1	14	2	1	4	14		506
64	508	コムクドリ													508
65	514	トラツグミ								1					514
66	521	シロハラ	20	15	22	13			1	3	4	8			521
67	522	アカハラ										3			522
68	525	ツグミ	134	49	62	29			136	3	44	35			525
69	530	コマドリ													530
70	536	ルリビタキ	3	1							1				536
71	540	ジョウビタキ	3	5	3			1	7	3	5	1			540
72	542	ノビタキ													542
73	549	イソヒヨドリ	1							1	1				549
74	552	エゾビタキ													552
75	554	コサメビタキ										2			554
76	558	キビタキ					2	3				1	1		558
77	561	オオルリ													561
78	568	ニュウナイスズメ				4						11			568
79	569	スズメ	39	60	30	13	32	37	31	32	4	21	23		569
80	573	キセキレイ	2	1		1									573
81	574	ハクセキレイ	12	9	21	13	12	8	16	12	15	9	6		574
82	575	セグロセキレイ				2			4	2		1			575
83	580	ビンズイ	3												580
84	584	タヒバリ													584
85	586	アトリ	65	40	11	44			18	31	32	2			586
86	587	カワラヒワ	21	51	23	9	5	20	81	97	65	10	15		587
87	600	シメ		3					8			2			600
88	602	イカル		4		2							3		602
89	610	ホオジロ													610
90	617	カシラダカ													617
91	624	アオジ	4	4		2			2		2	2			624
92		ドバト	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		
93		ソウシチョウ													
94		カッコウSP													
95		ムシクイSP													
96		タカSP													
97	37	トモエガモ							3						37
98															
99															
		種類数(種)	32	31	31	32	23	26	36	39	36	37	26		
		個体数(羽)	565	443	399	306	268	235	538	398	369	268	250		
		天候	晴	晴	晴	曇雨	曇雨	曇	晴	晴	曇	晴	晴		
		参加者数(人)	4	33	23	22	18	29	23	34	35	31	30		

Ⅴ 来月の万博公園探鳥会 7/13(土)

集合 9:30 自然文化園中央口　　終了 15:00 頃 日本庭園内の予定

内容 今年も猛暑といわれています。冬と同じ羽毛をまとっている鳥たちはどう過ごしているでしょうか。暑さ対策の水分補給を充分にしてご参加ください。

参加予定の方 今月同様大阪支部 HP ホームズ様式からお申し込みのこと

ホームズでの申し込みが難しい方、平宛メール g.0501.hi@gmail.com 連絡ください